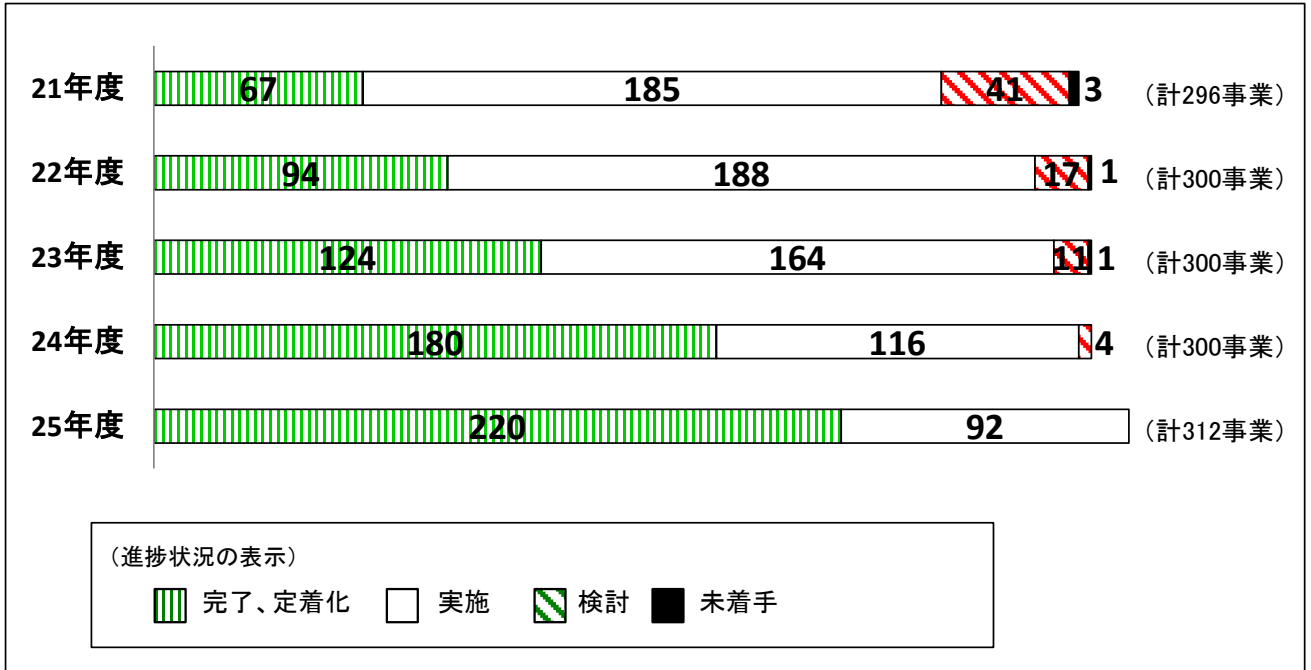


戦略的地震防災対策推進部会の状況について

戦略的地震防災対策推進プランの進捗について

▶ 平成25年度の進捗状況

全体として概ね順調に進捗



<政策目標別の内訳>

政策目標	進捗別 事業数								
	完了・定着化		実施		検討		未着手		計
	事業数	比率	事業数	比率	事業数	比率	事業数	比率	事業数
1 地震に強い京都のまちづくりを進める	36	55%	29	45%	0	0%	0	0%	65
2 地震時のすまいの安全、地震後のすまいの安心を守る	14	64%	8	36%	0	0%	0	0%	22
3 地震に強い京都の人づくりを進める	33	75%	11	25%	0	0%	0	0%	44
4 行政の危機対応能力の向上を図る	62	79%	16	21%	0	0%	0	0%	78
5 災害後の府民生活を守る	65	76%	21	24%	0	0%	0	0%	86
6 京都らしさを保った復興を実現する	9	69%	4	31%	0	0%	0	0%	13
7 京都経済・活力を維持する	1	25%	3	75%	0	0%	0	0%	4
計	220	71%	92	29%	0	0%	0	0%	312

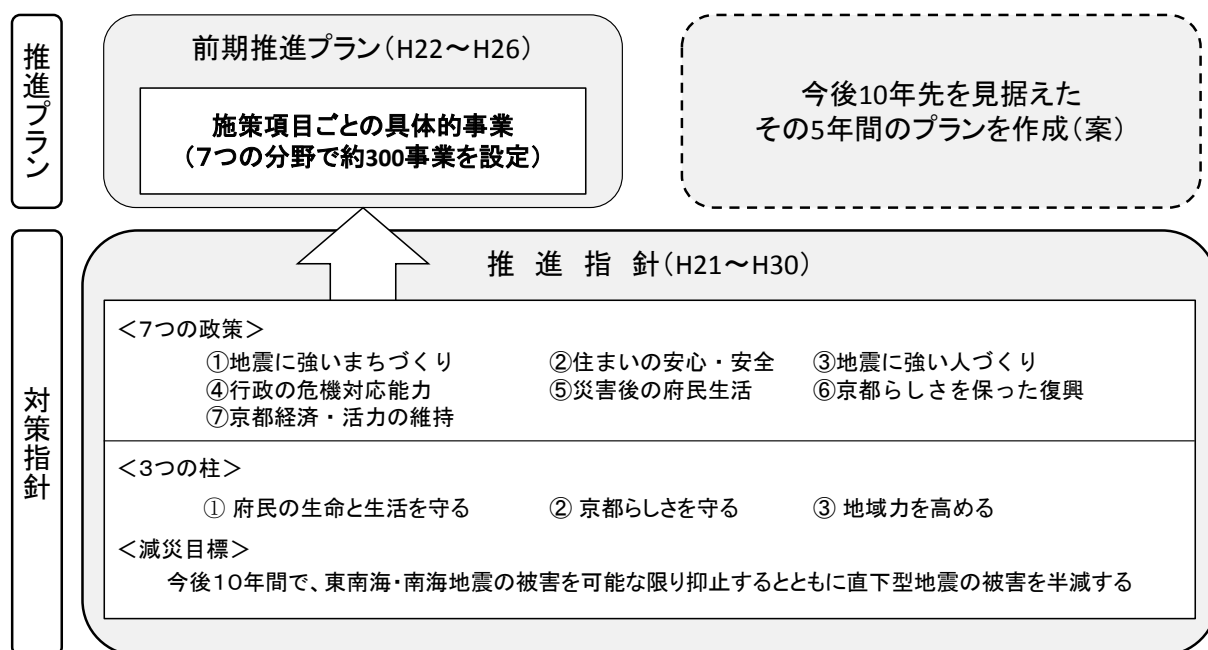
<主な数値目標の目標達成状況（推進プラン計画期間：平成22～26年度）>

事業【目標値】	現状(平成25年度末)
防災拠点施設の耐震化 【80%】	83.6%
公立小中学校の耐震化 【90%】	94.1%
府立学校の耐震化 【80%】	88.2%
災害拠点病院の耐震化 【100%】	100%
第1次緊急輸送道路の法面防災対策 【100%】	100%
全市町村でJ-ALERT整備 【全市町村】	全市町村完了

▶ 戦略的地震防災対策推進部会の評価

- 25年度までに、全体の約7割の項目が「完了・定着化」していると認められ、順調に事業が進められてきているものとする。また、「検討」段階にある項目がなくなった点も評価できる。
- 「完了・定着化」とされている事業のうち、計画やマニュアルの作成が目標になっているものは、作成するだけで完了とするのではなく、図上のシミュレーションや訓練の実施・検証等、ソフト的な項目と同様、実効性を保ち、定着化できるように継続した取組が必要である。
- 今後は残りの「完了・定着化」に至っていない項目についてどのように推進するのかが課題になる。進みにくい理由を分析し、今年度「完了・定着化」となった項目の取組等を参考にしながら進められる。

今後の対策指針・推進プランの取組について



▶ 戦略的地震防災対策推進部会の意見

- 今年度が推進プランの最終年度であることから、改めてこれまでの対策指針・推進プランの取組の総括を実施し、東日本大震災の発生や法律の改正等、情勢の変化を踏まえた評価を行うこととし、それらを前提として新たな具体的事業を検討する必要がある。
- 現行の10年間の対策指針は、情勢の変化を考えると少し長いので、後継のプランについては、絶えず10年先を見据え、その当初5年間分について具体的な事業を設定する推進プランとして位置付けるという方法も考えられる。